

ぬかた体験村

調査団体名	ぬかた体験村	団体代表者名	ぬかた体験村 村長 赤松弘一
設立年月日	2017年10月7日	対応してくれた人の名前	赤松弘一
団体URL			
活動拠点	岡崎市石原町 カフェ柚子木	調査員	浅田益章 沖章枝
取材日	2017年12月21日	レポート作成者	沖章枝

活動内容

2017年10月7日にオープンしたばかりの『ぬかた体験村』で、矢作川流域圏懇談会山部会のフィールドワークがあった。体験村スタッフの指導の下、参加者全員がユズ畑に行ってなるべく青い実を一人10個摘んできて、すりおろし、ペースト状の青とうがらしと混ぜ合わせて作る“柚子こしょう作り”を体験した。普段したことのない作業はととても新鮮で、作ったことがなかった製品の柚子胡椒は宝物に思えた。

体験メニューは、この他に、柚子シロップ作り 柚子狩り、体験村で平飼いされている岡崎おうはん(地鶏)の卵を使ったプリン作りなどなど。季節に応じて、春は茶摘みや山菜摘み、夏は川遊びや尾根歩き、木こり講座、冬は餅つき、随時、鶏の餌やりもある。

岡崎市観光課が岡崎市の特産品の普及と山里生活体験をテーマにしたバスツアーで観光客を呼び込んでくれている。

キャッチフレーズ

自然のままに！ 環境にやさしく、自然にやさしく、人にやさしく

会のモットー(何を大切にしているか)

生まれ育った場所を生かす。親や先祖の想いを大切にす。
同じ思いを抱くものが協力しあって、森のざわめき、川のせせらぎ、小鳥のさえずりといった自然の恵みを生かした新しい岡崎の顔となるような事業を展開したい

設立から現在に至るまで変化したこと (設立までの道のり)

30年前、親世代は化学肥料と農薬で土を駄目にしていることに気づき、お茶の木を切って8人の仲間と農薬を使用しないで生産ができるユズの木を1000本植えた。生産組合を作ってユズを出荷してきた。年金にプラスアルファの収入があればよいというぐらいの考えだった。赤松家の家業はプラスチックの成型やコーティング。他にもアイデアマンの父親は阪神淡路大震災の被害に心を痛め、耐震ウッドシェルターベットを製造し、東京や大阪などの大都市に販売してきた。木製品が好きで持ち山の木を使用してログハウスも建築した。体験村の村長は3年前、住居を街中のマンションから実家に移して、ログハウスでカフェ柚子木を始めた。この時、ユズを活かしていくことを決めた。ユズ生産組合の人々は亡くなったり現役から退かされている。

連携している団体・専門家自治体など

岡崎市観光課...宣伝をして、バスツアーの観光客を誘致してくれている
JR...愛知県内の市町村へ全国から観光客を招こうという企画の募集があって、『柚子の取り組み』で応募をしたところ採用されたので、鉄道を利用した観光客を呼び込めると思う。

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源の活用など)

- ◆六次産業申請に3回チャレンジして駄目だったので、独自ではじめたが結果的にはこれでよかったと思っている。
- ◆18年春には岡崎おうはんの卵を使用した長崎カステラの製品化と販売を目ざしている。
- ◆18年5月にスタートが決定しているが、額田商工会の飲食業の会員と連携して『岡崎かき氷街道』を開催する。
メニューはそれぞれ自由だが、シロップは人工着色料いっぱいでない、自前の特に額田産ものを使うことを条件としたい。

現在直面している課題

かき氷に地元の湧水を使用したいけれど、保健所の規定では許可された製氷業者の氷しか使用できない。地元製氷業者がない。地域ならではの意義がなくなるので、参加店と協議をしている。(その後、地元の蔵元柴田酒造の神水使用が決定した)

今後やってみたいこと

- ◆ホタルの観賞ができる川床づくり
- ◆柚子卵・・・岡崎おうはんの餌にユズの皮を混ぜるとユズの香りがする卵になる。
- ◆地元食材を使ったファーストフード。ドライブやサイクリングで訪ねた人が気軽に立ち寄って自然を満喫しながら食べられるような岡崎おうはんやジビエのバーガーなど。
- ◆耕作放棄地・林間地を利用して薬草になるヨモギやスギナなどを育て加工、製薬会社へ出荷すること。異業種の仲間が20～30人集まっているので、廃屋を拠点にしてできるのではないかと考えている。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

取り組みができるような情報や知識。
目標に向かって同じ気持ちで取り組めるメンバーが欲しい。
ボランティア地域協力隊員。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 尊敬する人は？

<答え> 父親と、お茶の木を切ってユズの木を植えてくれた地域の人々。そのお陰で、いま自分がユズを生かしたことが出来ている。

チームオリジナルの質問②

<質問内容> 里山の環境としてどんな状況が望ましいと思われるか？

<答え> 人だけとか特別な生き物だけ大切にされるのではなく、さまざまな生き物が共存共生できるような環境。例えば、清流の指標生物といわれるゲンジボタルは、カワニナの数によって生息数が決まるといわれる。カワニナは水がきれいすぎでは生きられない。人の残飯などが流れ込むちょっと汚れた川を好む。自然界は微妙なバランスで成り立っていることを謙虚に受け止めてゆきたい。

その他、伝えたいこと

岡崎かき氷街道の計画も他のことも、地域外の大勢の人に旧額田町の素晴らしさを知ってもらいたい、知らせる切り口になるといいなあと思っているから。山あり、清流あり、渓谷もある。名木もあるし自生する花の群生地もある。遺跡も寺社仏閣もある。鳥や生き物もいる。そして、人びとが生き生きと暮らしている。世間の人々のさまざまな期待に答えられる環境があることを知らせたい。

取材風景 (2017年12月21日)

(①)ぬかた体験村

岡崎市石原町帝口38
カフェ柚子木

くらがり溪谷に近い県道37号線から
脇道に入ってちょっとのところ。
(村長 赤松弘一さん)



① 柚子園・イベントコーナー：
道路左側



② カフェ柚子木：
正面、道路右側

活動状況(1) 今回の取材訪問



③ オープンして2か月の訪問



④ 楽しい雰囲気のカフェで取材。



⑤ わ紅茶にあう。柚子のお菓子



⑥⑦ 額田産の食材による額田の味覚：地鶏の岡崎おうはんの卵料理



⑧ 自然農園でのユズ狩り体験案内

活動状況(2) 開村直後の訪問。体験



⑨⑩⑪ 10月14日に矢作川流域圏懇談会(山部会)メンバーで初訪問しました。
自然豊かなゆず園でゆず狩りを体験。イベントコーナーで「ゆずこしょうづくり」に挑戦。